

とりあえず延命で… と思ったらそれでは済まなかった!?

Microsoft Internet Explorer (IE) のサポートが、2022年6月15日に終了します。
これにより、IE ベースの SaaS アプリケーションや基幹業務システムに依存しているお客さまは、
モダンブラウザへの移行が求められます。しかし、改修に残された時間は一年間しかありません。
そこで、お勧めしたいのが「ThinBridge」です。



ThinBridge は、ブラウザの使い分けストレスを解消します。

IE 用に作り込まれた Web アプリケーションを使い続けるために、たとえば、SaaS アプリケーションを利用する場合は Google Chrome、インターネット閲覧の際は、リモートブラウザを利用する、といった使い分けが必要になります。

ThinBridge を導入すると、ユーザーは URL をクリックするだけで、適切なブラウザに自動的に切り替えることができます。

1日に何回も IE や Chrome、インターネット閲覧用ブラウザを手動で切り換える煩わしさをなくし、利便性と生産性を向上させます。



1 サーバー上に用意したブラウザをリモートで
利用する方式 (リモートブラウザで IE を配信)

2 IE の互換機能をもったブラウザを
利用する方式 (Edge の IE モードを利用)

二つの延命方法があります

ThinBridge が延命措置で発生する 利便性低下の課題を解決します。

1 リモートブラウザとしてIEを配信

サーバー上に用意したブラウザをリモートで利用する方式

インターネット ← FAT 端末 → リモートブラウザ → 社内システム

課題

- FAT 端末とリモートブラウザの2つのブラウザの利用が必要。
- 手元のブラウザとリモートブラウザとでブラウザの手動切り換えが発生する。

2 EdgeのIEモードを利用

IEの互換機能をもったブラウザを利用する方式

インターネット ← Chromium 版 Edge (Edgeネイティブ / IEモード) → 社内システム

課題

- 過渡期 (Edgeへ完全移行するまでの併用期間) や別ブラウザを利用している場合に複数ブラウザの利用が必要。
- Edgeの利用が前提となり、他のブラウザも使う場合ブラウザの手動切り換えが発生する。

いずれもブラウザを切り替える手間が発生し、利便性・生産性が低下

解決

1 リモートブラウザとしてIEを配信

ブラウザリダイレクト機能により自動化し、利便性を向上!

インターネット ← FAT 端末 → リモートブラウザ → 社内システム

手元のブラウザとリモートブラウザをリダイレクト

2 EdgeのIEモードを利用

ブラウザリダイレクト機能により自動化し、利便性を向上しつつEdge以外の選択も容易に!

インターネット ← Chromium 版 Edge (Edgeネイティブ / IEモード) → 社内システム

手元のブラウザ同士でリダイレクト

※ ThinBridge は以下の Web ブラウザに対応しています。・Internet Explorer ・Microsoft Edge ・Google Chrome ・Mozilla Firefox

ThinBridge はテレワークにもご利用いただけます。

ThinBridgeは、ローカルブラウザだけでなく Microsoft Remote Desktop (RDS)、Horizon RDSH、Citrix Virtual Apps といったテレワークに適したリモート環境のブラウザへのリダイレクトも可能です。これにより、リモート・ローカルを含む幅広いブラウザのハブとして機能します。

※本ソリューションをご採用頂く際は、所定の同意書への同意が必要になります。同意頂けない場合はご利用いただくことができません。
 ※対象の Web システムや動作環境によっては、正常に動作しない場合がありますので、お客様にて事前に動作検証を行ってください。
 ※文中の社名、商品名などは各社の商標または登録商標である場合があります。

特集記事 IEサポート終了に向けて
行わなければならないこと

<https://licensecounter.jp/vmware/solution/article/end-of-support-ie.html>

Webアプリ延命ソリューションは SB C&S へご相談ください